弘前城かわら版

Vol.2（令和4年3月31日）

弘前城跡では、令和3年度より弘前城三の丸追手門と二の丸南門の保存修理工事が始まっており、今後も史跡内で重要文化財建造物や橋などの修理が計画されています。弘前市では、弘前城跡で進む文化財の修理情報を『かわら版』として随時発信しています。

三の丸追手門、５８年ぶりに保存修理！

1.地下遺構の調査

追手門は耐震診断の結果、大地震で浮き上がる恐れがあると判明したため、土台下にカウンターウエイト（おもり）を埋設する耐震補強を実施します。弘前城築城の慶長16年（1611）頃の建物と考えられ、地下に江戸時代の遺構が残っている可能性もあることから、事前に発掘調査を実施しました。

三の丸追手門

江戸時代の黒色土（写真右）

調査の結果、追手門の土台下には外周を巡るコンクリート基礎が施工されており、昭和38年(1963)の補強であることが分かりました。江戸時代の盛土（黒色土）はコンクリート基礎の下、現在の土間コンクリート叩き面から下に65cmの深さで検出されています。江戸時代の黒色土は本来、現在の地面に近い高さまで残っていたものと思われますが、昭和38年に65cmに渡り掘り込まれ、その穴の中にコンクリート基礎が施工されたことが分かりました。

2.銅瓦葺き屋根の修理

銅瓦葺き屋根（南面：南東から）

銅板下の下地木部（南面：南東から）

令和3年11月上旬より工事用の仮設足場を設置し、今回の修理対象である上層屋根を覆う銅板のほとんどをはがし、下地木部の状況を確認しました。追手門では2階窓の庇[ひさし]に江戸時代中期頃の屋根が残っていますが、それ以外の上層・下層屋根は昭和～平成に全面修理されています。前回上層屋根を修理したのは昭和13年（1938）のことであり、現在の上層屋根は実に83年もの間、風雨に耐えてきたことになります。

銅板をはがす際は、事前に銅板1枚1枚に番号を振り、位置情報を残した上で剥ぎ取りしました。状態の良い銅板は上層の妻面[つまめん]に再度葺き直しますが、傷みが激しいものは新しい銅板に交換します。

屋根下地木部の状態は概ね良好でしたが、軒先の巴[ともえ]・唐草[からくさ]部分を中心に取替・補修が必要と判明しました。

屋根に付く鯱[しゃち]・鬼板[おにいた]についても、表面の銅板をはがして中の木部を確認しました。鯱の下地には杉材が用いられており、銅板内部で腐食している様子が確認されました。

庇の屋根は江戸時代の様相を残す

鯱の下地木部（東側の鯱）

【発行】弘前市都市整備部公園緑地課弘前城整備活用推進室
住所：青森県弘前市大字下白銀町1番地
電話：0172（33）8739　FAX:0172（33）8799
E-mail：kouen@city.hirosaki.lg.jp